

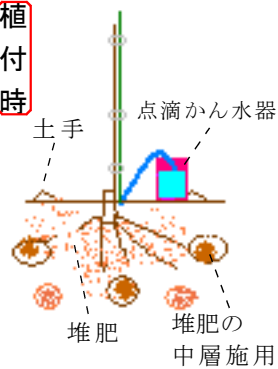
ニホンナシの早期成園化技術

埼玉県は全国第8位のナシ生産県ですが、高樹齢化による生産性の低下が問題となっています。改植による若木への更新も指導されていますが、収量が回復するほどの樹冠の拡大に年数を要します。そこで、比較的早期に樹冠を拡大できる（収穫が始まる）苗木育成法を開発しましたので紹介します。

①点滴かん水で乾燥を防ぎ、②骨格枝になる新梢は6月に摘心して二次伸長させると翌年の主枝先端の伸びがよくなり、3年間で主枝を約4m伸ばして樹冠を拡大できます。

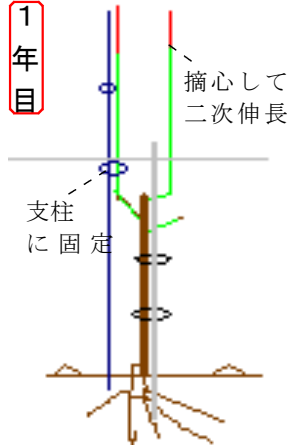
苗木育成法

植付時



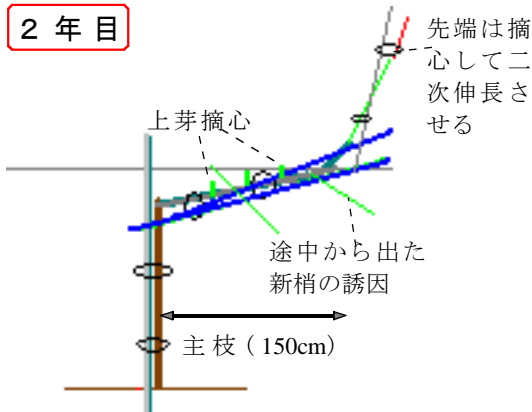
均一に根配りして植え付け、植え付け穴と外側に完熟堆肥を中層施用します。やや高植えにし、周りに円状の土手を作り定植後に1〜2回かん水を行います。3月にも1〜2回かん水します。

1年目



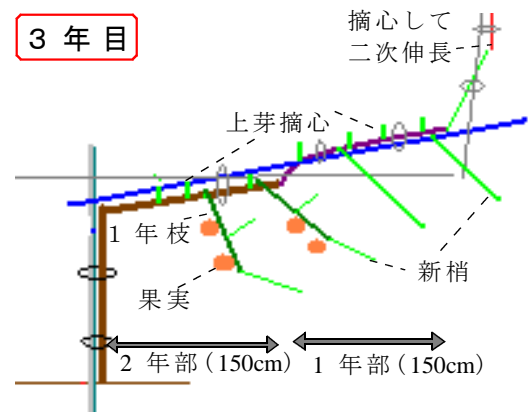
主枝候補の枝は外に開き竹等に沿わせて伸ばし、6月に内側の芽で摘心して二次伸長させます。水分管理は重要です。10〜14日おきに20L程度かん水するか、専用器具を用いた点滴かん水で水分を補給します。敷きわら等によるマルチは土壌の乾燥とともに、泥跳ねによる病原菌の付着を防ぎます。

2年目



主枝は添え竹をして棚下に配置し、主枝の基部同士をわら紐等で結束します。先端は長さ150cm程度先の葉芽で切り、高く誘引し、先端新梢は紙紐等で直立させ、6月下旬に内側の芽で摘心して二次伸長させます。途中の上芽は葉4枚で摘心し、横から発生した枝は強くなるようであれば誘引します。

3年目



せん定は2年生樹と同様に主枝を棚下に配置し、先端は長さ150cm程度先の葉芽で切り、高く誘引します。横〜下から発生した枝を片側で2〜4本配置し、主枝あたり15果程度着果させます。主枝途中の枝は誘引、摘心して太らせずに先端枝の伸長を確保し、3年間で主枝を4m程度延長して樹冠を拡大させます。

水分補給、先端枝の固定と摘心、途中上芽の摘心と新梢誘引がポイントです。